ファーストペンギン通信

第５号
2025年７月４日(金)
発行人
八王子実践中学校
教頭　石川 敦史

コメ作り農業体験・田植え

令和７年６月１７日（火）にコメ作り農業体験の第一弾として田植えをおこないました。東京随一の米どころである地元八王子市高月町で、昔ながらの手法である「手植え」を体験しました。

まずは、運動靴から足袋に履き替えます。こはぜを留めるのに苦戦する生徒も見られました。

開会式ではお世話になる地元農家の石川研さん、東京八王子酒造の西仲鎌司さんよりご挨拶をいただきました。

校長先生からは「コメ作り農業体験を通じて、『私たち日本人の主食であるコメがどのようにして作られるのか』、コメ作りの現状と課題を学び、日本の伝統文化の継承に繋げてほしい」というお話がありました。

開会式終了後は歩いて田んぼに移動し、いよいよ田植えの開始です。等間隔に赤い印が付けられたロープが張られ、印のところに３～５本ずつ苗を植えていきます。ぬかるんだ田んぼの中での作業は足が抜けなくなってしまうこともありましたが、「かかとから足を抜くといいよ」というアドバイスをいただき、だんだんとコツを掴んでスムーズに植えられるようになっていきました。八王子実践幼稚園の年長組の園児たちと一緒に約１反の田んぼに植えました。

昼食後にはコメ作りの工程やコメの種類、コメ作りのの現状や課題について、農家の方のお話をうかがうフィールドワークをおこないました。

お米の消費量は食生活の多様化や消費者の意識の変化、生産量は減反政策の影響や農家の高齢化による生産力の低下が要因となり、年々減少傾向にあります。田んぼに水を流すことで、土に栄養がいきわたり、生き物のすみかにもなると考えると、コメを作ることは生物の多様性を守ることにも繋がります。自然と農業がうまく回っていく「循環」がとても大事なのだということを学びました。

３～５本ずつの苗を３回植えた分が順調に育つとおにぎり１個分（約３８００粒）ぐらいになるそうです。今回の体験は日本の伝統文化について学ぶとともに食文化についても考える機会となりました。

生徒の感想

・お米が育つにはこんなに時間と準備が必要ということ、芽から生えるのではなく根から生えるという細かい所まで教えていただき本当にありがとうございました。とても分かりやすくて、楽しい時間になりました！（１年生）

・農家さんの実際のお話を聞いて、だんだん主食がパンや麺類に変わっていくという状況の中で、日本のお米を食べてきたという伝統を大切にし、またお米を食べる人を増やしたいという思いがよく分かりました。それだけでなく、日本の自給率が低く危険な状況になっていることも教わりました。きっと他の農家さんも同じことを考えていると思います。僕はお米が大好きなので、これからもお米を食べるということを大切にし、作ってくれた農家さんに感謝をする、そしてこのことをより多くの人に伝えることができたらいいなと思いました。（１年生）

・日本はお米が主食なのに肥料やタネは輸入されてきたものを使っているし、農家さんの数も減ってきているのに平均年齢は７０歳と、あと１０年後くらいには米作りの農家さんがいなくなってしまうかもということを知って、少しでも自分たちが力になれたらいいなと思いました。実際に田植えを体験したことで農家さんたちの大変さを知れたのでこれからは今まで以上にお米が食べられていることに感謝して食べていきたいです。（２年生）

・第一次産業は元々関わる機会が少なく時間をかけて行うものばかりなので、大体は話を聞くのみだったり収穫体験をしたりと一日完結型のプログラムのものしかやったことがなく、今回のような田植えから収穫まで自分達でやるという経験は初めてです。暑い中で泥だらけになりながらの作業だったので疲れましたが、それ以上に意味のある時間を過ごせたと感じています。（３年生）